

中学校

ダイヤモンド・ランキング

○目標となる資質・能力

コミュニケーション能力、思いや考えの表現力、思いやり・他者理解

○指導のねらい

合意形成の体験から、思いの伝達、相手の考えの尊重などの大切さを考える

○準備するもの

カード（または付箋）9枚×生徒数

○教育課程、実施時期

特別活動、行事の前後など

○留意点など

次時のクラススローガン決定、曲目の決定、練習などに繋げていく

展開例

	学習活動	指導上の留意点
導入 10分	1 合唱コンクールで大切だと思うことを発表し、クラスで9つに絞る	・黒板に箇条書きで書き出す ・下記の例のように9つに絞る 「練習量」「団結力」「責任感」「思い出」「努力」「一生懸命」「学級の結果」「感動」「個人の結果」
展開 30分	2 本時の学習を知る みんなの意見を聞いて、みんなで決めよう 3 各自でダイヤモンド・ランキングを行う 4 班で話し合い、班でダイヤモンド・ランキングを行う 5 班ごとに合意したランキングとその理由を発表する	・付箋やカードに書かせても良い ・以下のことを確認する ①全員の考えを最後まで聞く ②違う考えを否定しない ③多数決では決めない ④少数意見は貴重なのでよく聞く ⑤強く意見を言う人の言いなりにしない ⑥意見を聞いてなるほどと思ったら自分の考えを変える ・クラスのダイヤモンド・ランキングを行ってもよい
まとめ 10分	6 合意形成の体験とランキング結果について感想を発表する 7 ランキング結果を基に、合唱コンクールに向けた取組を行っていくことを知る	・感想を書かせてもよい ・クラススローガンや曲目の決定に繋がるようにする

参考

○「合唱コンクールで大切だと思うことを発表」について

班内で意見を出してまとめたものを発表させてもよい。また、付箋に書いたものを黒板に貼らせ、KJ法の手法でグループ化し、タイトルをつけていく方法も考えられる。多くの意見を導き出すためにも、予め、合唱コンクールに対する志気を高めるような働きかけを行っておくこと。

○「ダイヤモンド・ランキング」について

すべて大切なものであるのは間違いないが、その中でも今回最も優先されるものはどれかという視点を意識させる。ランキングを話し合うことによって、価値観の凝集を図り、集団の目標を明確にするねらいがある。

○「班で話し合う」について

ここでは合意形成（コンセンサス）を行わせる。合意形成を行わせることによって、少数派の意見に耳を傾けさせたり、相手の意見を受け入れたりする態度の育成、集団に主体的に関わる態度などを育む。それらの体験は、いじめの未然防止に対する効果以前に、このあとの合唱コンクールの曲決めや練習等の行事に向けた活動の過程にも、直接活かされると考えられる。ゆえに、合意形成は、結論そのものではなく話し合いの過程に意味があるので、十分な時間を確保する必要がある。

また、そう考える理由を必ず述べるように促しておくこと。その生徒の思いは結論ではなく理由の中にある。例え同じ結論であっても、それぞれの生徒の思いの中にある微妙な違いを互いに感じさせることによって、他者理解が深まる。

○「合意形成の体験とランキングの結果について感想を発表」について

「クラスにはいろんな思いを持っている子がいることがわかった。」「自分の思いとは違ったけど、決まったからには、それに同意して頑張りたい。」「多数決もいいけど合意形成もいいと思う。」というような感想が出てくるように展開したい。ただ、教師側は、コミュニケーション能力等の向上にねらいを置いているが、生徒側は合唱コンクールに向けた活動の第一歩であると認識しているため、合意形成の体験に対する振り返りは自然には発言されにくいと思われるので、問い方の工夫が必要である。

○「クラススローガンや曲目の決定に繋げる」について

各班のランキング結果をもとに、合唱コンクールに向けたクラススローガンを決めたり、曲決めの際に合意形成で行ったりする展開が考えられる。また、合唱コンクールが終わったあとに、「合唱コンクールで得たものは何だろう」というテーマで今回と同様にダイヤモンド・ランキングを使ってまとめることによって、クラスの絆づくりなどにも活かせると思われる。

資料

参考文献 東京都教育委員会「いじめ防止教育プログラム」